

# 長岡市震災対策訓練

日時：平成 21 年 10 月 18 日(日) 午前 8 時から午前 11 時まで

会場：山古志地域各集落及び山古志支所

## ○訓練の様子



↑各集落の参集の様子（種苧原、虫亀、竹沢(下村)、桂谷）



↑衛星携帯電話を利用し、現地災害対策本部(支所)と通信訓練（種苧原）



↑集落が孤立したことを想定し、自衛隊ヘリコプターでの避難訓練（種苧原→山古志小・中学校）



↑ 体育館前で、模擬倒壊家屋から負傷者の救出・救護の訓練 (山古志体育館前)



→ 避難所でプライバシーを守るため、簡易授乳室、更衣室を組み立て (山古志体育館大アリーナ)



↑ 日用品(毛布、物干し竿)を使った簡易担架の作製訓練 (山古志体育館小アリーナ)

→ 心肺蘇生や AED の使用方法、新聞や布を使用した応急手当の訓練 (山古志体育館小アリーナ)



↑ 体育館外では、起震車による地震体験や、各種関連機関による防災車両等の展示が行われた (山古志支所前)

## 中越地震から5年 防災へ意識新たに 長岡・川口初の合同訓練

### 山古志地域は全住民避難



中越地震から5年を前に長岡市と川口町18日、合同防災訓練を初めて行った。同地で全住民が避難した山古志地域では、訓練でもあらためて全住民が徒歩・ヘリコプター・遊覧飛行船からの力まぐら撮影や気球を使った通信システムもテストされ、空陸での大規模な訓練となった。

訓練は、両市町で合併されている衛生連帯電話協議が進んでいることが前提で行われ、同市消防本部や陸上自衛隊など関係機関の約300人も参加した。

午前7時56分に震度6強の地震が発生した想定で、災害対策本部を山古志支所と川口町に設置。森民夫長岡市長は住民山古志地域では避難指示に地震後に山古志は中

を避けて全14集落の住民約1400人が、徒歩やバスで避難所の避難場所に移された。同地域で山古志地域では、避難場所から約4km離れた山古志小中学校まで、自衛隊のヘリや四輪駆動車で避難した。

14集落の区長は、配られた避難指示や電話で住民の安全や道路状況を確認し、同市から給水車などの救出を訓練。川口町は投機間の連絡態勢を確認し、同市から給水車などが派遣された。

森民夫長岡市長は住民山古志地域では避難指示に地震後に山古志は中

①自衛隊ヘリで避難する住民たち18日、長岡市の山古志小中学校  
②倒壊家屋からの救助訓練をする消防関係者18日、長岡市の山古志支所

↑10月19日 新潟日報 (26面)

「四川省やほかの被災地とつながってきた。自主防災組織のメンバーだけが頑張るのではなく、訓練で住民全員が避難の動きを確認できよう。と振り返った。」

区長、星野清剛さん(8)

## 中越地震、教訓に 旧山古志などで1700人訓練



中越地震から23日で、5年を迎えるのを前に、長岡市は18日、全山古志地域を震源にマグニチュード6.8の地震が古志村(現長岡市)で発生、山古志で震度6強で震害対策訓練を行った。住民と自衛隊、警察、医療機関など約1700人が参加し、避難訓練や情報伝達訓練で、14集落の住民が

公民館などに避難した。中越地震では携帯電話や固定電話が不通になり状況把握が遅れた。その教訓を踏まえ、訓練では衛星携帯電話を使い、区長らが避難人数やけが人の有無、道路の破損状況を本部に報告した。また、山古志地区では、約2人がヘリコプターで避難した。

訓練終了後、森民夫市長は住民らを前に「山古志が元気になることで、地震で大きな被害を受けた。中国四川省や台湾も元気になるという気概で前に進んでほしい」と呼びかけた。【長谷川隆】

↑10月19日 毎日新聞 (21面)

## 5年 気持ち新たに 防災訓練



04年10月23日に起きた新潟県中越地震で被災した旧山古志村(現長岡市)で18日、5年の節目として初めての大规模な防災訓練が行われた。写真、福留篤友撮影。14集落の約1400人が参加した。

中越地震5年 経験忘れない

↑10月19日 朝日新聞 (1面)

## 5年 気持ち新たに 防災訓練



04年10月23日の中越地震から5年。大きな被害を受けた旧山古志村(現長岡市)で18日あった初の大规模な防災訓練は、震度6強で一つの集落が孤立した想定で実施された。山古志地域の昔は集落の住民約1400人に「避難指示」が出され、住民は陸上自衛隊の大規模ヘリコプターやパ

倒壊家屋からけが人を助け出す実践的な訓練が行われた。長岡市長古志竹沢、福留篤友撮影

↑10月20日 朝日新聞 (30面)

徒歩で山古志支所へ避難する子供たち（18日午前9時13分、長岡市の山古志地域で）



# 「あの日を忘れまい」

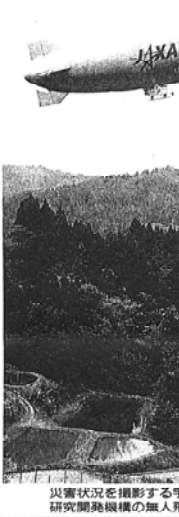
長岡市山古志地域と川口町で  
行われた初の大規模防災訓練。ヘリコプターによる住民避難や、衛星携帯電話を使った情報伝達など、住民らが新たな避難方法を体験した。5年前の中越地震を教訓に、大規模な訓練に、住民は「あの日を忘れまい」と、山古志小・中学校のグラウンドに降り立った。

## 山古志地域と川口町



衛星携帯電話で現地対策本部に状況を報告する地域の区長（18日午前8時52分、長岡市山古志東竹沢の権金集落で）

### 中越地震5年初の大規模訓練



災害状況を撮影する宇宙航空研究開発機構の無人飛行船

道路や電話回線が寸断し、外部に情報伝達できなかった教訓から、長岡市が各集落に配備した衛星携帯電話を使った情報伝達訓練も行われ、現金集落の藤井徹区長は、集落外に十分な3か所の道路が陥没、車が通行不能になると、市現地の災害対策本部に報告した。市山古志支所では、宇宙航空研究開発機構（JAXA）がカメラ搭載の無人飛行船を使い、被災状況を調査する初めての実地訓練もあった。飛行船はヘリウムガスを浮力し、電動モーターで駆動する。時速20〜30分の低速飛行や空中での停止も可能なため、人が近づけない場所の被調査に役立つと期待される。3年後は、5年で防災対策を全国に活用化を目指すとして、地域が回復した。感無量です」と話していた。

↑10月19日 読売新聞（29面）



## 中越地震5年 1700人訓練

新潟県中越地震から5年、23日午前7時56分、8の地震が起きた。この想定で行われたヘリコプターなどによる住民避難訓練は、旧山古志村と川口町の川口町を知らせるサイレンが鳴り、住民らは避難訓練が行われた。関係者計約1700人が参加し、初めての規模な合同防災訓練が行われた。写真は、被災経験を生かした中山間地の防災対策を全国に発信しようとする長岡市が企画。5年前と同じく、山古志地域の深さ3メートルまで掘り下げられたグラウンドに降り立った。グランド6、8の地震が起きた」との想定で行われた。午前7時56分、地震発生を知らせるサイレンが鳴り、住民らは避難訓練が行われた。関係者計約1700人が参加し、初めての規模な合同防災訓練が行われた。写真は、被災経験を生かした中山間地の防災対策を全国に発信しようとする長岡市が企画。5年前と同じく、山古志地域の深さ3メートルまで掘り下げられたグラウンドに降り立った。

↑10月19日 読売新聞（33面）



## 山古志、川口合同震災訓練 つらい体験教訓に

あつらい体験を教訓に、中越地震から5年を前に18日、長岡市山古志地域と川口町で初めて合同実施された大規模な震災訓練。山古志地域の全住民や、陸自自衛隊などの関係者約1700人が参加した。住民たちは地震後に地域に全員集約された衛星携帯電話を災害対策本部に伝え、強化された防災体制を実感。カメラで被災状況を撮影する無人飛行船を試験的に飛ばすなど、研究機関の新たな取り組みも紹介された。訓練後「地震を経て、集落の絆が一層強まった」と話す住民も、全村民衆という言葉を、強い団結力を手にした山古志地域の住民たち、訓練の様子を写真で紹介する。

写真① 被災状況を空中で撮影するため、宇宙航空研究開発機構（JAXA）が開発した無人飛行船「ヘリウムガス」が用いられた。定速飛行に耐え、担当者は風が強かったが、うまく飛ばすことができた。話した（長岡市の山古志支所）

写真② 地震発生により、避難所までの道路が断絶したとの想定で、避難のため自衛隊のヘリコプターに乗った住民もそのうち1機は降りた後、「地震の時の避難を思い出す」と話し、自らに話した長岡市種彦の山古志運動広場

10月20日 新潟日報（19面）